YASUNORI TANAKA MANIFESTO「田中やすのり」

# Yasunori

緊急提言

# 板橋の未来を語る

## 急増している児童虐待

早期に子どもや家庭のSOSに気づく体制をつくる

## 区内でも認知症高齢者が行方不明に

最新の通信技術を活用し道に迷う高齢者の位置を掴む

## ゼロにはまだ遠い待機児童

保育所の整備を可能な限り前倒して整備する

mirai ZU

田中やすのり区議会レポートVol.36　2019年2月発行

YASUNORI TANAKA MANIFESTO「田中やすのり」

Yasunori

## 朝の駅頭にて区政報告を実施中！

## プロフィール

昭和49年板橋区成増生まれ。
成増すみれ幼稚園、成増小、赤塚第二中、城西大学川越高を卒業。
早稲田大学商学部を経て、大手広告会社（大広・博報堂DYG）に勤務。

## 監査委員に若くして抜擢！

### NPO活動

地域コミュニティデザイン研究所を設立、代表に就任。認知症高齢者への成年後見制度の普及に力を入れ、自らも成年後見人として権利擁護に奮闘。

### 議会活動・政治歴

企画総務委員会、議会運営委員会、交通対策調査特別委員会、予算審査特別委員会の委員長、都市建設、都市環境調査特別委員会、決算調査特別委員会の副委員長を務める。
これまで企画総務、区民環境、健康福祉、都市建設、文教児童委員会など幅広く委員会を歴任。

## 子どもたちの健全な成長を支える活動、命を守る活動に励む！

### 資格・ボランティア

ボランティア：消防団員（上級救急救命士）、いきいき寺子屋スポーツ指導員
趣味：早朝の硬式テニス、下手なジャズ・サックス、20年以上続く新聞の切り抜き

動画配信中！

http://www.tanaka-yasunori.jp　田中やすのり　検索

連絡先：〒175-0094 東京都板橋区成増3-22-34
TEL：03-6303-1130　FAX：03-3939-4211　E-Mail：mail@tanaka-yasunori.jp

Yasunori

YASUNORI TANAKA MANIFESTO「田中やすのり」

# 板橋の未来を語る

**板橋区が抱える喫緊の課題を12年以上に亘って議会の最前線で見つめ培ってきた知見と視座から、これから区が課題にどう向き合っていくべきであるのかについて詳解する。**

## 板橋が抱える三つの喫緊課題とは

**1.急増している児童虐待**

板橋区内の子どもへの虐待相談受付件数は「544件」に上ります。

**2.認知症高齢者が行方不明に**

認知症高齢者の行方不明者は区内だけでも「2件」と判明。

**3.ゼロにはまだ遠い待機児童**

まだ区内には「185人」も保育所に入れない待機児童がいます。

板橋区を取り巻く課題は常に変化しています。その変化に臨機応変に対応できるように、柔軟な姿勢での取り組みが大切になります。

まず「急増している児童虐待」への対応です。板橋区では児童相談所と子ども家庭支援センターの機能を併せ持つ「板橋区子ども家庭総合支援センター」の設置を進めています。そこで大切なのは、早期に子どもや家庭のSOSに気づく体制を関係機関が一体となってつくること。また、切れ目のない支援を実現することです。妊娠期から子育て期、そして18歳到達後に亘るまで、ワンストップ拠点で継続的に相談支援を提供していく体制づくりを進めていきます。

次に「認知症高齢者が行方不明」となる問題への対策です。町会や認知症サポーターによる声掛け運動など認知症の方を地域で見守る仕組みづくりをもっと支えていかなければなりません。他にも新聞配達員、散歩している人、商店街など地域にはたくさんの見守りの眼があるはず、活かさない手はありません。板橋区が始めた高齢者見守りキーホルダーの配布も強力に後押しをしていきます。さらに今後は、GPSが搭載されたシューズなどを活用する施策を進め、道に迷っている高齢者の位置情報を掴めるようにすることも求められてきます。

最後に「ゼロにはまだ遠い待機児童」をどう解決するかについてです。認可保育所や小規模保育事業などの整備により定員拡大を図ることは必須の取り組みと言えます。区には保育所の整備を可能な限り前倒しできるように求め、都・区有地や鉄道の立体化で生まれる高架化空間の活用を貪欲に追求していきます。今後は駅前で子どもを預かり、郊外の保育所へバスで送迎するサテライト型保育事業も検討の余地はあります。そして、申込者の状況やニーズに合わせた丁寧な保育サービスのマッチングを行い、待機児童ゼロ作戦を総合的に展開していきます。

# 議会で取り組んでいる5つの政策

YASUNORI TANAKA **MANIFESTO**

## 行政改革 | 徹底的に業務効率を改善し、健全な財政運営を行う！

- 老朽化した公共施設の計画的な更新を実現できる、中長期的な視点からの財政運営を行う
- AI（人工知能）を活用し、業務効率を高め、住民サービスも向上させる
- ネーミングライツなどの広告収入を増やし、自主財源を増やしていく
- 複式簿記を採用する新・地方公会計を徹底的に利活用する財務諸表には事業別などの有益な情報をアウトプットし、決算の調査などで活用を図る
- 類似事業は統合を進め、二重行政は撲滅へ
- 新たに民間の力を活用し、経費は削減、サービスは向上を図る

地方自治体でもAIの活用を本格的に導入する動きが出始めています。AIが得意とする分野の業務を任せれば、業務効率の改善や住民サービスの向上・維持が期待できます。具体的にどのようにAIを活用しているのか、事例を紹介します。

横浜市：AIによるWeb上での住民問合せ対応サービス・ごみ分別案内を提供
千葉市：AIが道路の破損状況を自動的に診断し、修理の必要性を判断する管理システムを導入
さいたま市：AIが保育施設の割り振りを決める実験を開始。約1,500時間の業務が数秒で終了
大阪港区：戸籍関連業務でAIの自然言語処理を活用し、特殊事例に対する職員の判断を支援
港区：AIを活用した議事録を自動で文章化するツールを導入

## 地域 | 地域のことは地域の力で解決できる仕組みを！

- 地域力を活かした高齢者の見守りネットワークづくり
- 地域が学校を育てていく“コミュニティ・スクール”を始めよう
- 親子でつくる地域の安全・防犯マップの作成をさらに展開
- お年寄りが気軽に立ち寄れる“認知症カフェ”や“街のサロン活動”の立ち上げと運営をサポート
- 地域の課題や問題点を地域の住民が解決する“コミュニティ・ビジネス”をつくる

**一人暮らしのお年寄りのご自宅を定期的に訪れる身近な地域の力を引き出そう！**

電気・ガスなどのライフライン事業者や新聞配達などの生活に密着したサービス事業者と包括的な連携を進め、早急に安否確認ができるネットワークの構築が求められています。

## 誇り | 板橋に誇りと愛着を抱かせる施策を展開！

- 賑わいのある商店街を復活する
  機を捉えたプレミアム商品券の発行と利用できる店舗の拡充、
  商店街全体の魅力伝達をサポートし個店ごとの賑わいづくりも支援
- 美術館と郷土資料館での展示を工夫し、多彩な魅力を発信
  「自然と歴史と文化の里・赤塚」をアピールできる施設として改修も行う
- 若い世代が輝く文化拠点の整備、社会教育会館（まなぽーと）にもっと光をあてる
- 絵に描きたくなるような景観や美しい街並みを創出する
- 都営三田線地下鉄の延伸を（西高島平～埼玉方面へ）、西高島平と成増、光が丘方面との交通アクセスも改善する

## 防災 | 急所・弱点のない防災体制をつくる！

- 物的および人的な応援を円滑に受け入れるための“受援計画”を早期に策定する
- 避難所の整備充実と避難所運営を円滑化する取り組みを継続的に絶えず行う
  避難所の冷暖房の整備、福祉避難所の受入れ人数の確保、備蓄物資の見直し、
  避難所運営ゲームの普及などが必要です
- 国道などの緊急輸送道路沿い建築物の耐震化率を“100％”へ
- 1人で避難できない要援護者を全員把握し、個別に支援計画をつくる
- 台風などの予測可能な大雨に備えるタイムライン（防災行動計画）を個人に徹底する
- ゲリラ豪雨などによる都市型水害に対応できる街づくりを急ピッチで進める

## 都市 | 持続可能な都市を目指す！ Think Globally Act Locally

- ESD（持続可能な開発のための教育）のさらなる推進とユネスコスクールへの加盟の促進
- $CO^2$削減に果敢に取り組む
  パリ協定、国、東京都の動向を踏まえ、区としての新たな削減目標を設定する
- 酷暑のヒートアイランド現象を緩和する
  遮熱性舗装の整備促進、屋上・壁面緑化の推進、緑のカーテンのさらなる普及
- 地産地消の推進
  板橋で採れた野菜を学校給食への提供をもっと拡げる
- 日本の原風景を取り戻し、多様な生物が行き交う場をつくる

**最近よく聞くESDとは？**

ESDとはEducation for Sustainable Developmentの略語であり、持続可能な社会づくりの担い手を育むことを目的にした教育です。「一人ひとりが、世界の人々や将来世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育」とも定義されています。

# 暮らしやすく、ワクワクする板橋の街づくりを進めていきます！

**三園福祉園**：医療的ケア児の受け入れ体制を強化。スヌーズレンも充実！

**都営三田線**を埼玉方面に延伸しよう。**西高島平駅**に商店を呼び込みもっと元気な街に

人々が集う施設の建設を要望しよう。トラックターミナルの跡地利用を検討する

**新大宮バイパスの陸橋**：車の通行を可能にして、分断された街を繋ごう。街の防災力もアップ

花見の時期などは BBQ ができるように公園利用の規制緩和を進める（**北口第一公園**などから実施を拡大）

通学路の安全を徹底する。危険なブロック塀などを撤去（**三園小学校**をはじめ全校で継続点検）

ファミリー世帯からお年寄り世帯まで、幅広い世代による地域コミュニティを形成

多様な働き方に対応できる保育サービスを提供していきます。兄弟姉妹は同じ保育園へ優先的に（**しらさぎ保育園**などから）

**赤塚溜池公園**：生物の多様性の恵みを実感できる公園としての整備を
**郷土資料館**：子どもたちの教育に活かし、郷土愛をはぐくみたい

**おとしより相談センター**：認知症になっても、介護が必要になっても安心して地域で暮らせるようにサポート

子どもたちが自由に遊べる公園に。プレイパーク化を検討する（**アスレチック公園**などで実施）

**赤塚美術館**：文化の拠点としての情報発信機能を高めたい。キレイになった美術館では切れのある展示を充実をする

小中連携の仕組みを深め、一貫した教育プログラムを地域全体に広げよう（**赤塚二中 × 成丘小**をモデルに）

夏場のジャブジャブ池が続くように、サポートの仕組みづくり（**上赤塚公園**）

地域の人たちと一緒に介護予防に取り組む。新たな介護ニーズを捉える施設に

おたふくかぜはワクチンによる予防接種が大切です。子どもたちへの予防接種の助成を始める

**白子川の大成橋**付近：ゲリラ豪雨対策として成増幹線の増強を可能な限り早期に実現

**赤塚植物園**：四季に触れられる機会を提供。楽しみながら農業に触れる機会もつくっていく

**赤塚体育館**：民間の力を引き出し、さらに良いプログラムを提供する。元気高齢者をもっと増やそう

**東上線**の踏切対策：カラー舗装によって歩行者と自動車の通行をきちんとすみ分ける。危険な状況を少しでも改善へ

**成増アクトホール**：使い勝手がよくなるように改修します。トイレも洋式でピカピカに

**生産緑地**：都市農地を減らさない。地産地消を進め、学校給食では子供の食育に貢献する

**赤塚支所**：防災拠点としての機能をさらに強化。区民目線でのワンストップサービスの質をさらに高めたい

新聞、郵便や牛乳配達などの地域資源をフル活用して、高齢者を見守る体制を構築する

子どもたちの使用済みおむつは保育園で回収します（**成増保育園**などから全園で実施へ）

ICT 教育をさらに充実して、未来担う人材を育てる旗振り役に（**赤塚小学校**などから全校へ）

**赤塚高台集会所**：老朽化した建物を新しく建替えし、集会所もキレイにリニューアル

雨が降っても、強風が吹いても、ポスターやチラシが破れない町内掲示板へと改善を図る。アクリルケースを装着する

**小規模保育園**：待機児童対策の切り札として計画的に整備していきます。駅前立地を活かし延長保育を拡大

東武鉄道と連携し、放置自転車をなくしキレイな街並みに向けて対策を進めます

商店街は地域コミュニティの核として重要。人々が集い、街の賑わいを保ち続けるためのサポートを続ける

**赤塚福祉園**：自立につながる運営をバックアップ。レスパイト対策にも力を入れる

**赤塚健康福祉センター**：新生児訪問を徹底し、虐待などの芽を摘みます。引き続き、安心して相談できる乳幼児健診を

**児童館（CAP'S）**：ママ・パパが気軽に相談できる居場所に。乳幼児が発達できるプログラムをもっと充実しよう

一人では避難できない人への支援を充実させます。援護される人と援護する人との顔の見える関係づくりを進めよう

地域の方と運営に汗をかく「コミュニティ・スクール」が始まります（**成増小学校**などから全校へ）

**社会教育会館（まなぼーと）**：中高生にダンスやバンドなどの創作活動ができる場を提供。多世代交流も促進する

子どもたちが楽しく走り回れる、笑顔溢れる公園へ。ボール遊びもルールを決めて行えるように（**下赤塚公園**などから実施を拡大）

**川越街道**は災害時の緊急輸送道路であるため、建物の倒壊による道路封鎖は絶対にあってはならない。耐震化が急務！

地域に開かれ、地域を支える保育園としての機能をさらに高めます（**ゆりの木保育園**などから）

ファミリー世帯を呼び込み、さらに良好なコミュニティが活性化

Yasunori
YASUNORI TANAKA MANIFESTO「田中やすのり」

教育
子育て

# コミュニティ・スクールの仕組みを活かして イキイキした地域を創っていきます

**地域のすべての人に、小・中学校を「おらが学校」としての愛着を持ってもらうコミュニティ・スクールの仕組みを活かして、地域の活性化へと繋げていきたい。急務ともいえる通学路の安全対策や切れ目のない子育て支援の充実などにも提言を続けていきます。**

## アクティブ・ラーニングを支えるICT教育環境の充実

教育現場のICT（情報通信技術）をさらに充実活用を図ることで、子どもたちの主体的で協働的な学びである"アクティブ・ラーニング"の効果を高めていきます。知識の暗記中心の受動的な授業から、今まで得た知識を生かして新しい解答を考え出す力を養う学習へと定着を図ります。また、発達障がいなど特別な支援を必要とする子どもたちには、障がいの状態や特性に応じてICTを活用することで、教科指導や自立指導の効果が高まるように工夫を凝らします。

主体的に学ぶことができる授業を行う

## 地域の目を活かし、安全・安心の通学路を

区内通学路については、地域の力も借りて、危険箇所を定期的に隅々までチェックします。ブロック塀については建築士による危険度点検調査の結果、危険と判定された場合は、所有者に生け垣などへの緑化を促し、撤去へと繋げていきます。道路の危険箇所については、警察と連携し、交差点の高輝度化や一時停止を赤で囲むカラー化の対策の検討を促していきます。子どもたち自身が事故のリスクに気づくことで、主体的に考える交通教育を展開していきます。

区内の通学路に残る危険なブロック塀

## 切れ目のない子育て支援サービスを提供

フィンランドの育児支援システムである「ネウボラ」を参考に、妊娠中から子どもが就学するまで継続的なサポートが受けられるような仕組みを充実させます。現在、区では様々な部署やセンターが多方面から出産や子育て支援を行っておりますが、相談窓口は一つになるように集約化を図っていきます。

## 学校施設の断熱化を急ぎ、体育館にも空調設備を

小中学校の普通教室には既にエアコンが設置されており、今までは電力によって力づくで教室を冷やしてきました。今後は、屋上や窓の断熱性能を上げることで、エアコンの空調効果を高め、結果として予算を抑えていきます。また、学校体育館は子どもたちの大切な運動や学習の場。酷暑の影響とはいえ、学校授業が行えない状況は、本来あってはならないことです。災害時には地域住民の避難所にもなることから、空調整備は急務の課題と言えます。

## 地域の子どもは地域で育てる「コミュニティ・スクール」導入のメリットを活かす

地域の人たちの色々な仕事や暮らし方に触れることで、子どもたちは多様なものの考え方を感じ取ります。たくましく明るく、明日を担う子どもたちを育んでいくことに繋がります。学校と保護者、地域との関わりが増えることで、保護者や地域の人たち同士の交流も必然的に増え、街には顔見知りがたくさんになります。学校が抱える課題を地域の力を活かし、協力して解決に結びつける努力を重ねることが、地域の活性化や街の安全・防犯にも繋がります。

YASUNORI TANAKA MANIFESTO「田中やすのり」

Yasunori

健康
福祉

# 地域の支え合いで安心して暮らせる健康でいきいきと住み続けられるまち

**介護が必要になっても、認知症になっても安心して暮らすことができる地域づくりをどう作っていくのか、とても大切になっています。また、健康寿命と平均寿命の差は平均で約9～12年と言われており、運動プログラムや社会参加の促進など健康寿命を延ばす取り組みを要望してきます。**

## 安心して住み続けられる「地域包括ケアシステム」を確立する

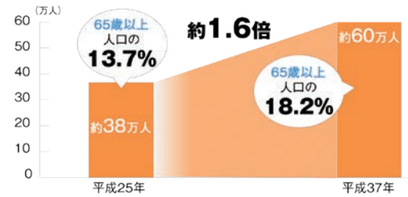
地域包括ケアシステムはニーズに応じた住宅を提供することが前提となっています。不動産業界との協力体制を築き、空き家なども活用しながら、高齢者の住まいの確保に力を入れます。疾病を抱えても住み慣れた自宅で生活を続けられるように、多職種が協働して、医療と介護を一体的に提供できることが必要です。高齢者の個別ケースに対して、介護ケアを改善させるための「地域ケア会議」については、介護度の低下や自立に繋がるように内容の充実を図ります。

地域包括ケアシステムとは、お年寄りが住み慣れた地域で暮らし続けられるように住まい・医療・介護・介護予防・生活支援を一体的に提供する仕組み

## 認知症を地域で支える

認知症の進行に合わせたサービス早見表の提供により、適切なサービスへと繋いでいきます。認知症は早期診断と早期対応が大切です。そのための体制である認知症初期集中支援チームがフル稼働するように、街のサロン活動などから相談を吸い上げる努力をしていきます。家族が抱える精神的・身体的な負担を少しでも軽くなるように相談事業や認知症カフェなどの支援をさらに進めます。若年性認知症の方の居場所づくりや就労・社会参加のサポートも充実していきます。

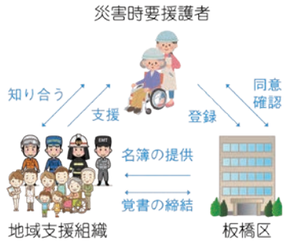
**何らかの認知症の症状がある高齢者の将来推計**




（資料）東京都「要介護者・認知症高齢者等の分布調査」（平成25年11月）

## 避難行動要支援者を守り抜く

高齢の介護世帯や障がいのある方など、一人で避難することが困難な方は要支援者として地域の関係者に情報提供されています。普段から要支援者と支援者が顔の見える関係を築き、万が一の災害時には安否確認をなるべく早く行えることが大切です。支援者が要支援者宅を訪問する機会をつくり、要支援者避難訓練の取り組みを広げていきます。また、要支援者数に比べて圧倒的に受入可能数が少ない福祉避難所の整備も推進が求められています。




避難行動要支援者名簿の活用が期待される

## 就労支援と生きがいの創出

今までの経験、知識と能力を活かして、いきいきと働きたいと考えるシニア世代は益々増えています。働くことを通じて、生きがいを得ながら地域社会の活性化に貢献もできるように、アクティブシニア就労支援センターやシルバー人材センターの運営を後押しします。また、シニア世代の多様化・高度化する学習意欲や知的好奇心の高まりに応える高齢者大学校「板橋グリーンカレッジ」をさらに充実し、地域社会づくりへと繋げていきます。

## いつまでも元気はつらつ！健康づくり、虚弱対策と介護予防を充実する

区民の誰もが最後まで毎日の生活をいきいきと健康はつらつで暮らしたいと思っています。健康上の問題がなく生活を送れる期間である健康寿命を延ばす取り組みを加速します。東京都健康長寿医療センターでの医学的根拠のある運動プログラムを参考にして、区の取り組みの充実を図っていきます。

# 「政策座談会」

## 板橋区議会議員 田中やすのり × 衆議院議員 下村博文

**下村博文衆議院議員が職務にあたっている憲法改正推進本部を訪れ、これからの板橋に求められる取り組みについて意見を交換した。**

### 板橋でもついにスタート コミュニティ・スクール

下村博文 代議士
文部科学大臣時代にも全国に推進を進めてきましたが、板橋区においてもコミュニティ・スクール導入についての動きが見られるようになりました。田中さんも初当選の時以来ずっと公約にはコミュニティ・スクールの実現を掲げていましたね。

田中やすのり
ついに板橋区でもコミュニティ・スクールの導入に向けて動き出しました。平成30年度にはコミュニティ・スクール推進委員会を10校（小学校7校・中学校3校）が設置され、平成31年度には区内の区立全小中学校73校に拡大される予定です。そして、平成32年度にはコミュニティ・スクール委員会（学校運営協議会）が区内の区立全小中学校に設置され、本格導入となります。

下村博文 代議士
学校が抱える課題の解決には、地域の力、そして保護者の力が必要となります。コミュニティ・スクール委員会から具体的な提案がなされることも期待できるでしょう。どのようなコミュニティ・スクールを目指していますか。

田中やすのり
地域コミュニティは、学校をよくするために何でも行う。地域が子供たちのために一緒に汗をかき、ガラス張りの学校運営にしていく。学校で起きていることは地域のみんなで共有する。そしてもし問題があれば、みんなで一緒に解決していく。こんな風に地域が運営する学校ですね。私も地域の一員として寺子屋指導員などの活動を続け、今後も学校のサポートをしていくつもりです。

下村博文 代議士
板橋区版のコミュニティ・スクールがどうなっていくのか、大いに期待しています。

### 人生100年時代、健康寿命を延ばすことが大切

下村博文 代議士
話は変わりますが、先日一緒に東京都健康長寿医療センターの視察に赴きました。虚弱（フレイル）になっている高齢者に対しても運動プログラムを実施することで、健康寿命が延伸する効果があることが医学的に示されていました。とても参考となりましたね。

田中やすのり
虚弱（フレイル）の段階から要介護へ移行しないようにする対策が、これからますます区にも求められてきます。早期に発見し、早期に運動プログラムなどで支援することの大切さも実感しました。

下村博文 代議士
多くの高齢者は虚弱（フレイル）の時期を経て、徐々に要介護状態に陥ると言われています。しかし、適切な支援をすることで健康な状態に戻ることができる時期でもあります。板橋区での取組みの現状や今後の展開についてはいかがですか。

田中やすのり
板橋区では生活機能を確認する元気力チェックの実施により、日常生活における支援が必要かの判断をしています。生活機能の低下が見受けられた方には短期集中型のサービスとして元気力向上教室を実施しています。筋力や口腔機能の向上を目的としたコースを実施していますので、健康長寿医療センターの研究結果や知見を活かすことができるのではないでしょうか。

下村博文 代議士
ぜひ先進的な取り組みを区も活用することで、安心して住みやすい街づくりに貢献をしてほしいと思います。これからも国と都、そして板橋区と連携をして地域をつくっていきましょう。

# 子どもやお年寄りに求められる政策とは？

# 10 田中やすのりの要望が実る

## 実り1 雨風に負けない町内掲示板へと生まれ変わる

アクリルのケースを取り付け、風雨に負けない掲示板へと改修。マグネット対応も施し、危ない画鋲止めは必要なくなります。

## 実り2 おとしより相談センターを「18ヵ所」へと拡充

18ヵ所

区民に一番身近で、地域活動の幅広い業務を担っている地域センターは18ヵ所。おとしより相談センターも地域の実情に合わせて拡充整備。

## 実り3 空き家を含む老朽化建築物等の対策条例を制定

空き家だけでなく、居住のある老朽化した建築物にも、必要な措置を取るように助言・指導、勧告及び命令をすることができるようになりました。

## 実り4 区街灯をLED街灯へと積極的に更新中

LED

区街灯の更新には省エネ効果の高いLED灯を積極的に導入し、10年間で全てをLED街灯にする予定で事業が進行中。3年間で約9,000基を既にLED街灯化。

## 実り5 電子黒板や可動式PCなどを全小中学校へ配備

電子黒板や可動式PCだけでなく、無線LANの再整備やネットデジタル教科書の配備も行う。授業におけるICT活用研修を全教員にも実施。

## 実り6 全小中学校の体育館・武道場の非構造部材の耐震化

耐震

天井材などの二次部材の落下防止、家具の転倒などによる被害が発生しないように工事を進め、平成28年度には全ての該当校で耐震化工事が完了。

## 実り7 いじめを早期に発見できるQUアンケートの実施

ハイパーQU

モデル校で児童・生徒の学校生活への意欲や学級に対する満足度を把握する心理検査であるハイパーQUを活用。いじめのない学級づくりを推進。

## 実り8 障がい者施設からの物品などの優先調達がさらに拡充

障がい者就労施設等からの調達方針を示し、調達の実績を公表（平成29年度:75件で1,297万円、平成28年度:63件で1,504万円の実績）

## 実り9 保育施設の整備と保育マイスター（相談員）の配置

保育マイスター

計画的に保育施設の整備（平成26年度:689人増、27年度:567人増、28年度:1,069人増、29年度:631人増）。保育専門の相談員である保育マイスターも配置。

## 実り10 被災時の支援を円滑に受け入れるための受援計画の策定

物資受援拠点として小豆沢体育館を活用するなどの、受援計画の骨子が固まる。地域防災計画へ反映されていきます。

# 実る To achieve

## 地域の要望が実る

**あったらいいな！できたらいいな！を実現。**

きめ細やかに地域の要望に耳を傾けてきました。
田中やすのりは、フットワーク軽く
現場に直行しすぐ対応します。
地域の課題やお困りごとはこれからも、
田中やすのりへ連絡をください。

### 赤塚小学校の校庭改修

農業祭の会場となるため校庭の劣化がひどく、地域から改修を求める声が強くありました。やっと改修が叶う。

### 成増小学校の校庭改修

雨が降ると小川のようになっていた成小の校庭。夏休みの期間を使い校庭を全面的に改修。スプリンクラーも設置。

### 志村消防団第9分団格納庫の整備

上赤塚公園の改修のタイミングに合わせて、消防団の格納庫をリニューアル。ポンプ車も配備が可能となる。

### 成増北第一公園沿いの歩道をキレイに補修

木の根っこが成長するなどして凹凸が激しかった公園沿いの歩道を補修。雰囲気も明るく、歩きやすくなりました。

### 川越街道沿いに自転車駐車場を整備

迷惑な放置自転車のために歩行者と自転車の接触の危険がありました。駐車場の整備で迷惑と危険を解消。

### 大成橋付近の雨水処理を高める

ゲリラ豪雨対策として、浸水の危険箇所となっている白子川の大成橋付近の雨水処理が高まるように区ができる対策を講じる。

### 空き家の行政代執行

成増四丁目の空き家の建物を全部撤去することがついに実現。ゴミや樹木などの放置物の撤去も行いました。

### 東上線成増駅の踏切歩道橋を補修

特に階段部分の劣化が激しく、ひび割れでデコボコの状態でした。現在は歩行もしやすくなりました。

### 三園地域のバス通り沿いの樹木を剪定

樹木が伸び放題になり、バスの通行を妨げていました。早速、樹木を剪定し、見通しもよくなりました。